



開会式



生徒実行委員会委員長あいさつ



選手宣誓



受付の様子

全国高等学校総合文化祭を通して考えたこと

茨城県立太田第一高等学校 3年 菊池 理加

私が全国高等学校総合文化祭茨城大会を通して感じたことは、大きく分けて2つあります。

1つ目は、同じ高校生で囲碁をやっている人がたくさんいることに感動しました。全国47都道府県の代表者が、個人・団体ともに一堂に集まって2日間大会が行われました。最初は、たくさんの方が来てくれたのだなぁとしか、考えていなかったのですが、この人たちが私と同じ高校生で囲碁をやっている人たちなのだと考えたら、親近感がわき、感動しました。また、この大会が行われる前の大会で対戦した方と再会し、彼女の方から声をかけてもらったときは、非常にうれしく感じました。そして、人の縁をこれからもっと大切にしようと考えました。

2つ目は、今回、私が担当した来賓の方々の応接という仕事のことです。最初は、ものすごく不安で、応接とはどのようなことをするのだろうと考えていました。しかし、担当の先生やその他の生徒たちと協力して、最後までやりきることができました。正直言って、初めはつらいと感じたり、苦しいと感じたりすることもありました。けれども、最後に来賓の方々にお礼の言葉やお褒めの言葉をいただいたら、今までの感情はすっと消えて、心が晴れやかになりました。この仕事を担当してよかったなぁと心から感じました。

これらの貴重な経験をさせていただき心から感謝しています。また、この経験をこれからの人生に生かしていきたいです。

高総文祭で得たこと

茨城県立土浦第一高等学校 2年 平沢 洸

いばらき総文2014が終了した今、この大会が茨城で行われた時に高校生だったことを幸運だったと思っています。

私は囲碁部門の司会をさせていただきましたが、準備の段階からとても多くのことを学ぶことができました。なかでも全国から来てくださったたくさんの方々のために、おもてなしの精神を持って準備をしたことは、貴重な経験になりました。なぜなら、この経験を通して、私が知らなかった多くの考え方などを教えてもらったからです。

最初は、無難に司会の仕事をするしか考えていませんでした。しかし、日本各地から来てくださる方々のことを思いながら、長い期間、多くの人が懸命に行動する姿を見ているうちに、私も自分なりに精一杯やろうという気持ちになりました。

本番に向けて、司会同士で原稿について色々話し合ったり、先生に良いと思う提案をしたりすることが、私にとって大きな充実感につながりました。

そして、皆が一体となって、大きなイベントを実行する楽しさを知ることができました。今回得た経験を、これからの学校生活に生かしていきたいと思います。

私の部門では、囲碁を打ち終わった後に初対面の人同士が打ち解けていく姿が、会場の至る所で見られました。対局をきっかけとして、人と人の輪が広がってゆくということは囲碁の魅力の一つであり、囲碁のすばらしさ、高総文祭のすばらしさを象徴していると思います。

最後に、私にこのような経験を与えてくださった皆さんと、この高総文祭に感謝しています。